

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1：活火山であることに留意）が継続＞

十勝岳では、22日05時08分頃、火山性微動が発生し、その後火山性地震が一時的に増加しました。

2006年以降継続してきた山体浅部の膨張を示す地殻変動は、2017年秋以降停滞しています。一方、長期的にみると、噴煙高の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇、地震の一時的な増加など、火山活動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動の推移に注意が必要です。噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況（図1～6）

十勝岳では、22日05時08分頃、継続時間が約27分の火山性微動が観測され、直後から振幅の小さな火山性地震が一時的に増加しました。また、微動発生に伴い、山頂付近に設置した傾斜計でわずかな変動を観測しました。

なお、微動発生の前後で62-2火口の噴煙の状況に変化はありませんでした。

十勝岳では5月下旬以降、火山性地震の一時的な増加や火山性微動が時々観測される中、今回の継続時間がやや長い火山性微動が観測されました。これらの活動は、62-2火口付近の浅いところで発生していると推定され、一連の活動と考えられます。

また、長期的には噴煙高の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇、地震の一時的な増加など火山活動の活発化を示す現象が観測されていますので、今後の活動の推移に注意が必要です。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平 29 情復、第 958 号）

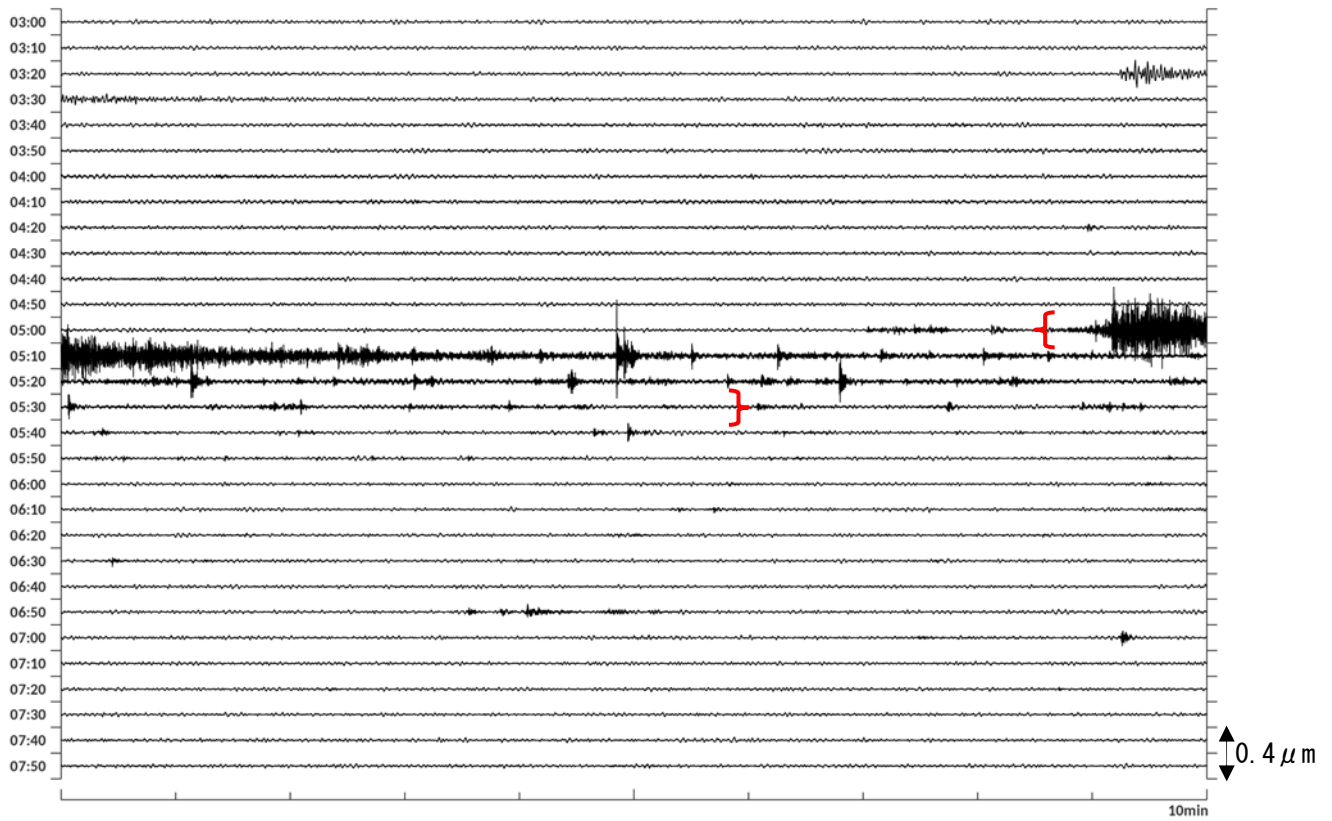


図1 十勝岳 避難小屋東の変位波形（東西成分）（11月22日03時～08時）

- ・ { } 内は微動の波形です。
- ・ 微動開始直後から、火山性地震が一時的に増加しました。

継続時間（分）

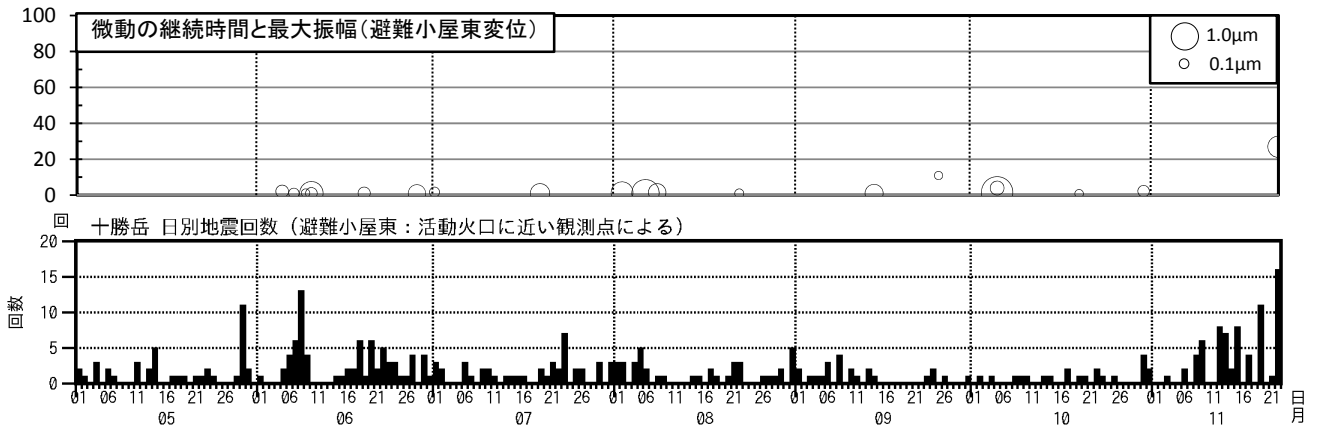


図2 十勝岳 火山性微動及び火山性地震の発生状況（2018年5月1日～11月22日）

- ・ 火山性微動は、6月から時々観測されています。
- ・ 火山性地震は、5月下旬以降、一時的に増加した日があります。

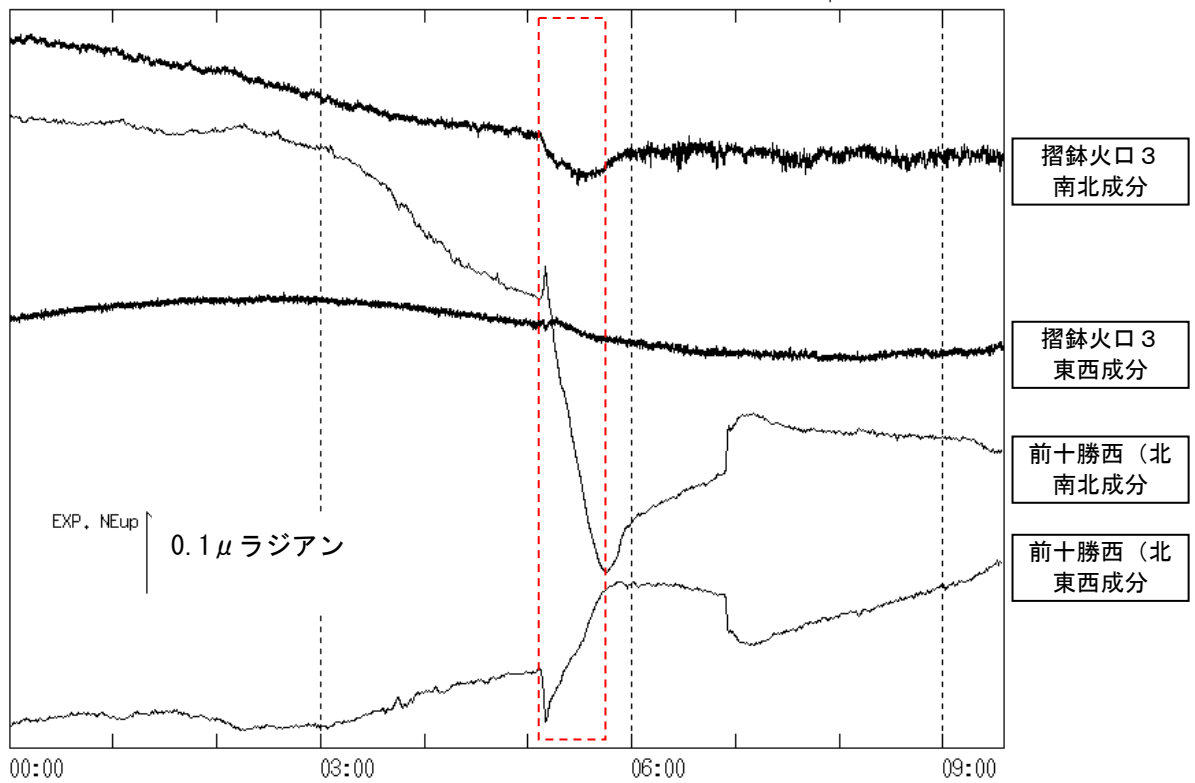


図3 十勝岳 山頂付近の傾斜計で観測された傾斜変動（22日00時00分～09時35分）
赤破線は微動が観測された時間帯を示します。

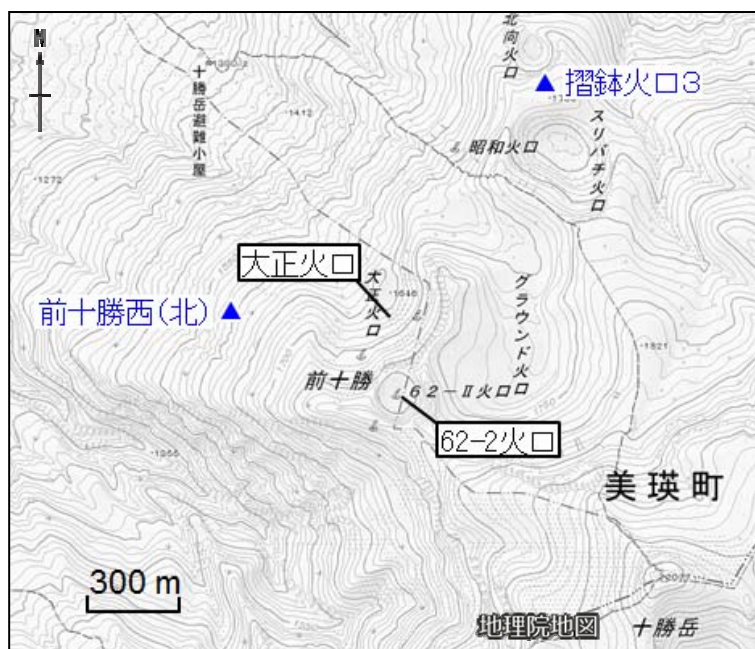


図4 十勝岳 火口周辺の傾斜計観測点配置図
(北) : 北海道大学

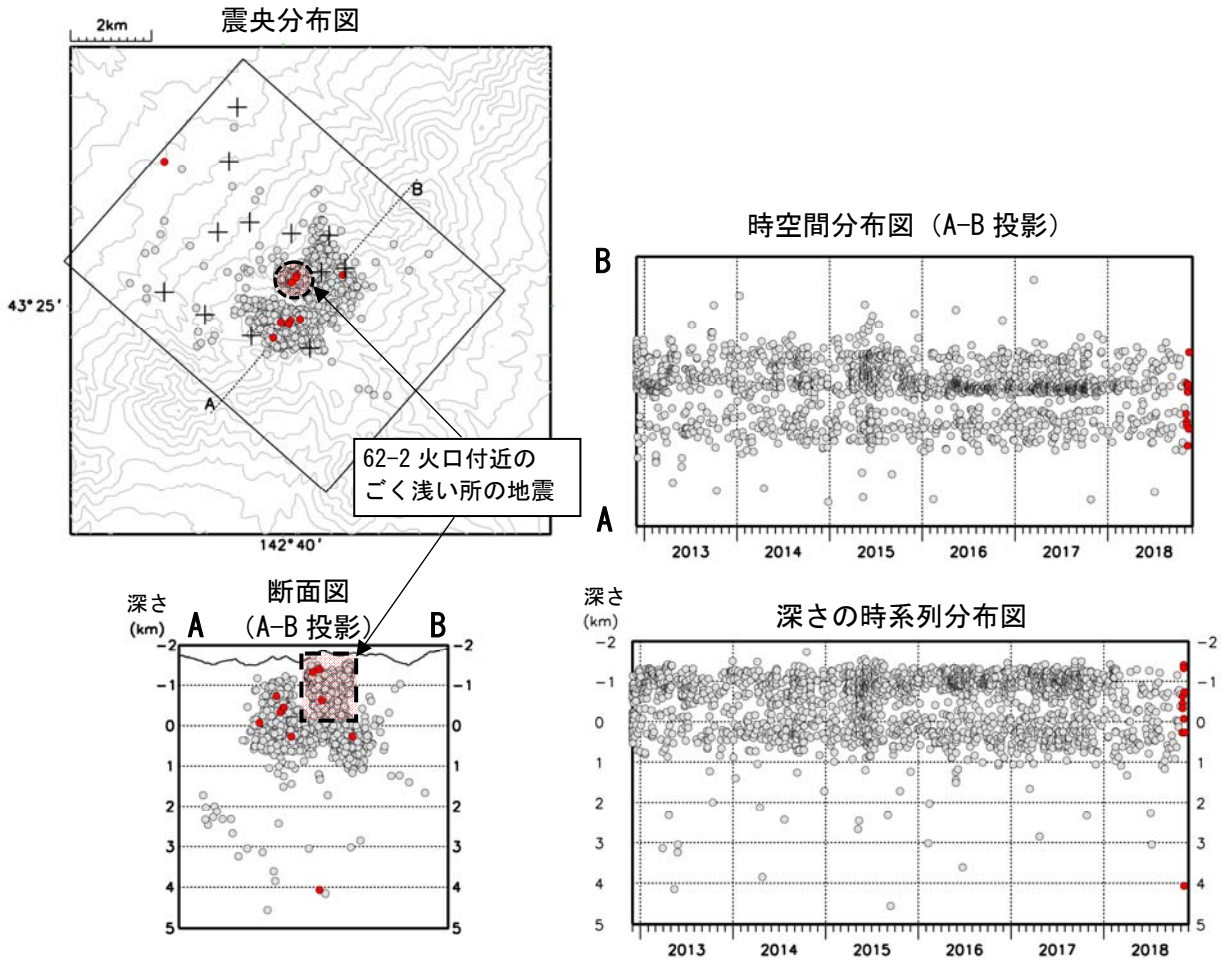


図5 十勝岳 火山性地震の震源分布 (2012年12月～2018年11月22日)
 ●印：2012年12月～2018年10月の震源 ●印：2018年11月の震源
 +印：地震観測点



図6 十勝岳 北西側から見た火口周辺の状況
 (11月22日06時21分、白金模範牧場監視カメラによる)

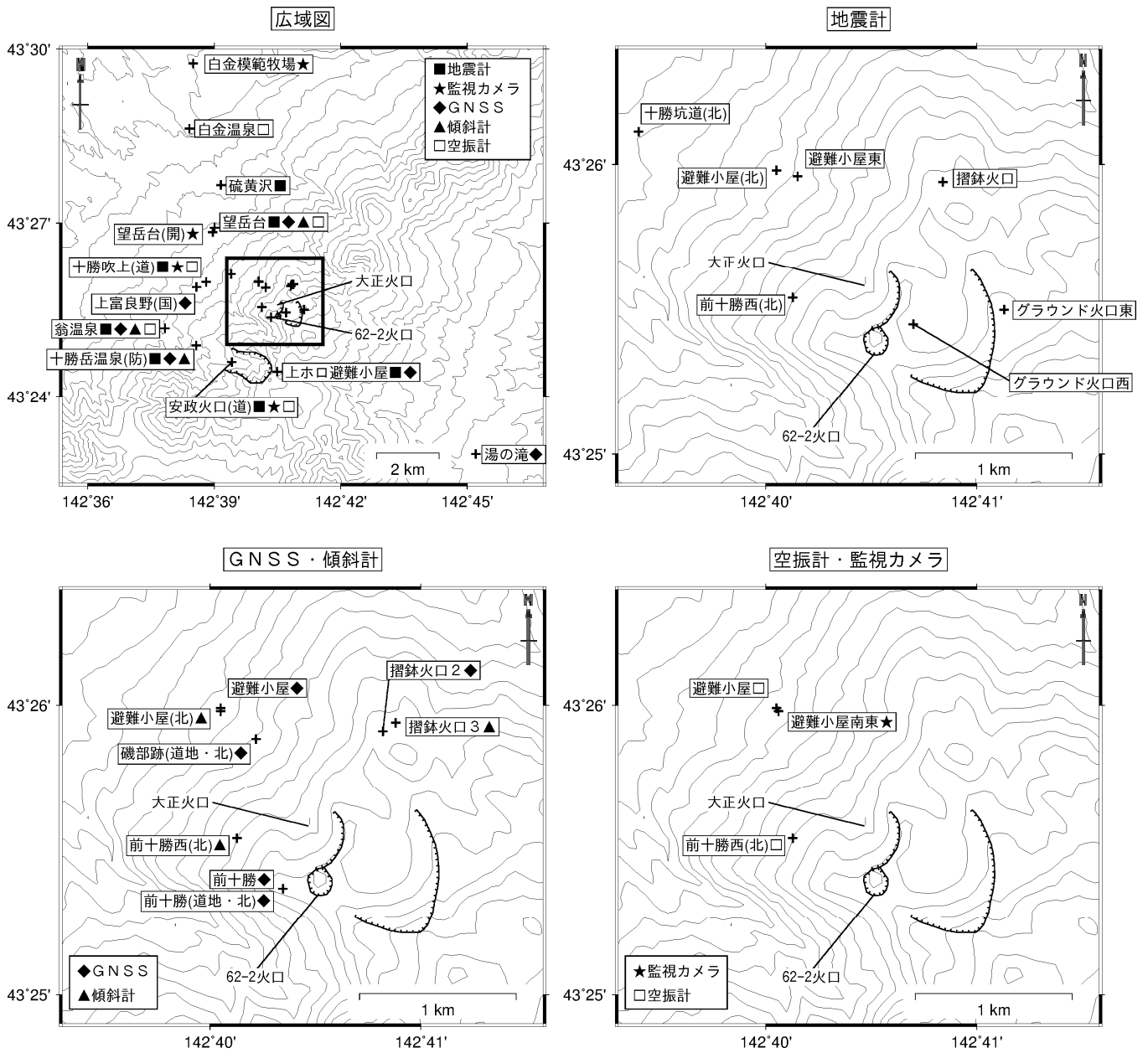


図7 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

十印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (開) : 国土交通省北海道開発局
- (国) : 国土地理院
- (北) : 北海道大学
- (防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道) : 北海道
- (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所